

胆石症

神戸掖済会病院

内科医長 かわ川 ぞえ添 ともたろう智太郎

胆石症とは？

肝臓は生体内の老廃物や有害物質を代謝・解毒し、胆汁として体外に排出する機能を持っています。日常の役目を済ませたり余ったりしたコレステロールや古くなった血色素（ヘモグロビン）から生成されるビリルビンなどが主要な成分となり、肝臓が合成する胆汁酸とともに水分と溶け合って胆汁になります。

胆石とは、胆汁の排泄路である胆管や胆嚢たんのうのなかで、胆汁成分が固まってできた固形物のことで、これによって生じる病的状態が胆石症です。胆石症は胆石のできている部位により、「胆嚢結石症」、「総胆管結石症」又は「肝内胆石症」とよばれます。

胆石症は増えているのか？

日本において胆石保有者の総数は、厚生労働省医療統計局「国民基礎調査」による推計総数では、平成2年度までは増加していました。しかしそれ以降、胆石症の動向については、疫学調査は行われておらず最近の詳細は不明ながら、相変わらず増加していると推測されます。

胆石は、或分によりコレステロール結石（純コレステロール石、混成石、混合石）、色素胆石（ビリルビンカルシウム石、黒色石）及びまれな胆石の3つに分類されます。関連学会などの調査によれば、日本の胆石症全体に占めるコレステロール胆石の比率は近年ほとんど変わりありませんが、色素胆石であるビリルビンカルシウム石は減少し、黒色石の増加がみられま

す。肝内胆石症に関しては、年々減少してきており全胆石症に占める割合は1%程度と推定されています。

胆石はどうしてできるのでしょうか？

胆石は大きく分けると2種類に分類でき、その原因も種類によって大きく異なります。コレステロール胆石は、胆汁のコレステロール濃度が高いときや胆嚢収縮機能が低下したときにできやすくなります。欧米では、コレステロール胆石ができやすい人として、Forty（40歳代）、Female（女性）、Fatty（肥満）、Fair（白人）、Fecund（多産婦）がいられていて、これらの頭文字の「5F」が知られています。また、脂肪の代謝に異常のある人、妊婦、急激なダイエット、胃切除手術後なども、コレステロール胆石の発生に関連があることがわかっています。

一方、色素胆石のうち最も多いビリルビンカルシウム石は細菌が原因ですが、黒色石の原因はまだよくわかりません。

胆石があるとどのような症状が起こるのでしょうか？

必ずお腹が痛みますか？

胆石の症状には、腹痛、悪心おしん（気持ちの悪いこと）、嘔吐おうと（吐くこと）などがあります。腹痛は胆石発作とよばれ、とくに脂肪に富んだ食事をしたあとにしばしば起こります。そのほかにおうたん黄疸がそろった場合には、胆石による急性胆管炎を起こしている症状であり、緊急の治療が

必要になります。ただし、胆石があるからといって必ず痛みが出るとは限らず、胆石を持っている患者さんの約半数に腹痛が出るといわれています。

①胆石による主な症状

胆石に関連して起こる腹痛を「胆石発作」とよぶことがあります。これは、食後、特に脂肪食を食べた後に起こることが多いといわれています。痛みの部位は、みぞおちから右の上腹部で、背中や右肩が痛くなることもあります。痛みの強さは、我慢できないくらいの強い痛みのこともあれば、ドーンと重い感じがするだけの軽いこともあります。2、3時間でスーッと治ってしまうことがあるのも胆石発作の特徴です。

胆嚢は右の上腹部にあります。痛むところはみぞおちなので、胃が悪いと思ってしまう人が多いようです。胃が悪いのだと思っていたところ、検査したら実は胆石だったということがよくあります。

胆石のその他の症状としては、悪心、嘔吐があります。ただし、これらの症状は他の消化器疾患でも出現する症状で、胆石に特有のものではありません。

② 緊急治療が必要となる状態

胆石があると急性胆嚢炎を起こすことがありますが、その時には、痛みと発熱以外に黄疸が出る場合があります。上腹部の痛み、発熱、黄疸がそろったときには急性胆管炎を併発していることが疑われます。急性胆管炎を起こすと、敗血症(細菌が体中に回ること)の状態となり、ショック(血圧が下がる)、意識障害(朦朧となったり、意味不明のことをしゃべったりする)などの症状が出ることもあります。このときには生命にかかわる危険な状態ですので、緊急に治療をする必要があります。

胆石を持っていると、がんができやすいのでしょうか？

胆石を持っていると胆嚢がんになる可能性が高いのか、どのような場合に胆嚢がんになる危険性が高いのかなど問題は重要で、胆石症の治療方針に直接かかわってくる事柄です。現在のところ、胆石が胆嚢がんの発生にかかわりがあるという報告と、それらはあまり関係しないという報告の両方があります。しかし、胆石がある場合には定期的な検査を行うことが勧められます。

胆石にはどのような検査が役に立つのでしょうか？

胆石は腹痛などの症状がきっかけとなって診断されますが、その検査方法には超音波検査やCT(コンピューター断層撮影)、MRCP(磁気共鳴画像(MRI)を使用した特殊な検査)、ERCP(内視鏡的逆行性胆道膵管造影法)といったものがあります。それぞれの検査法には特徴があり、医師は胆石のある場所や状況により検査法を選んで診断を進めていきます。

胆石の治療方法は？

胆石は症状(発熱、腹痛、黄疸)がある場合、治療が必要であり、またできる場所によって治療法が異なります。胆嚢結石は基本的に手術(腹腔鏡または開腹)になります。胆管結石は内視鏡を使って行う方法、肝臓に針を刺して胆石を取り除く方法、手術(腹腔鏡または開腹)による方法があります。その他、コレステロール胆石では薬で溶かしたり、直径2cm以下の胆石を小さく壊して取り除く方法(体外衝撃波結石破碎療法:ESWL)もあります。

おわりに

胆石は、必ずしも治療の必要はありませんが、

症状が出現したときにはできるだけ早めに専門医に受診し治療を受けた方がよろしいでしょう。

また治療したあとも再発等のおそれも考えられるため、定期的な検査が望ましいと考えられます。